

チャ (*Camellia sinensis*) 花部の機能性成分 (1) -茶花の生物活性評価-  
吉川 雅之<sup>1</sup>, ○松田 久司<sup>1</sup>, 越智 桃太郎<sup>1</sup>, 王 涛<sup>1</sup>, 森川 敏生<sup>1</sup> (<sup>1</sup>京都薬大)

【目的】ツバキ科植物チャ (*Camellia sinensis*) 葉には, *caffeine* による大脳機能亢進, 血管運動中枢・呼吸中枢などの興奮作用が, カテキン類による抗酸化作用, 抗アレルギー作用, 抗高脂血症, 抗がん作用などの機能性が報告されている. また, 私たちはチャ種子の主要サポニン *theasaponin E<sub>1</sub>*, *E<sub>2</sub>* のエタノール誘発胃粘膜損傷に対する抑制作用や消化管運動に及ぼす作用について報告した.<sup>1)</sup> 一方, チャの花部 (茶花) の機能性および成分に関する報告例はほとんどない. 今回, 滋賀県産の茶花 MeOH 抽出エキスおよびその配糖体分画などについて, 以下の生物活性評価を行ったのでまとめて報告する.

【方法および結果】胃粘膜保護作用: ラットを用いた EtOH (1.5 ml/匹, *p.o.*, 1 h) および *indomethacin* (20 mg/kg, *p.o.*, 4 h) 誘発胃粘膜損傷に対して, MeOH エキスおよび配糖体分画に 50~200 mg/kg で用量依存的な抑制作用 (抑制率: 43~80%) が認められた. 脂質および糖質吸収抑制作用: ショ糖負荷 (1g/kg) ラットおよびオリーブ油負荷 (5 ml/kg) マウスにおける血糖値および血清中性脂質の上昇に対して MeOH エキスおよび配糖体分画に 500 mg/kg の用量で有意な抑制作用が認められた. 一方, 小腸 $\alpha$ -グルコシダーゼなどに対しては弱い阻害活性しか認められなかった. 抗アレルギー作用: 抗原刺激によるラット好塩基球白血病細胞 (RBL-2H3) の脱顆粒に対して MeOH エキスは弱い抑制活性しか示さなかった. ラジカル消去活性: DPPH 安定ラジカルおよび *xanthine-xanthine oxidase* 系で生成する O<sub>2</sub><sup>-</sup>ラジカルに対する消去活性について検討したところ, MeOH エキスや配糖体分画などに強い消去活性が認められた.

1) *Chem. Pharm. Bull.*, **47**, 1759-1764 (1999); *Chem. Pharm. Bull.*, **48**, 1720-1725 (2000).